

平成 17 年度 江戸川区「行政評価」事務事業分析シート

整理番号	18	作成日	平成 17 年 6 月 20 日
事業名	熟年ふれあいセンター事業		
所属名	福祉部福祉推進課生活支援係	電話番号	5 6 6 2 - 2 4 8 6

事業の目的・課題	<b>事業の目的及び概要</b>
	熟年者の社会的交流の促進及び心身機能の維持向上を図る目的から、特に引きこもりがちな虚弱な熟年者を対象に、学校の余裕教室等を活用して、生きがい活動や介護予防活動を実施します。
	<b>事業の開始年度</b> 平成11年度
	<b>現在の課題</b>

- ①需要の拡大に伴うクラス数の増設（現在、1日6クラス）
- ②区内の地域バランスに応じた施設の増設（現在、3施設）
- ③介護予防の視点から活動内容の見直し、拡充

対象	<b>事業の対象者と動向</b>	<input type="checkbox"/> 区民全体	<input checked="" type="checkbox"/> 対象年齢あり（60歳以上）		
	[60歳以上の人口・各年4月1日]	<input type="checkbox"/> 対象条件（虚弱熟年者）			
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度

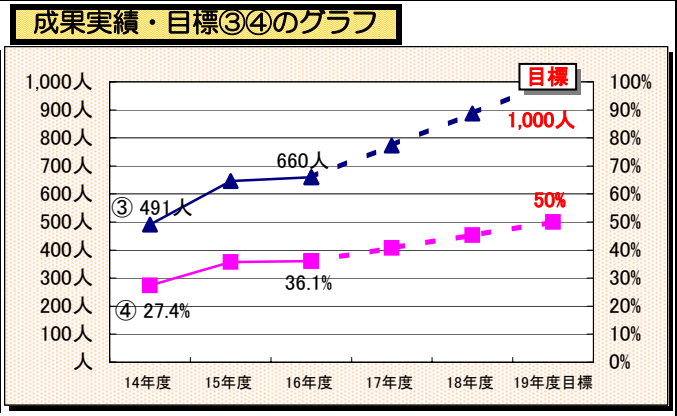
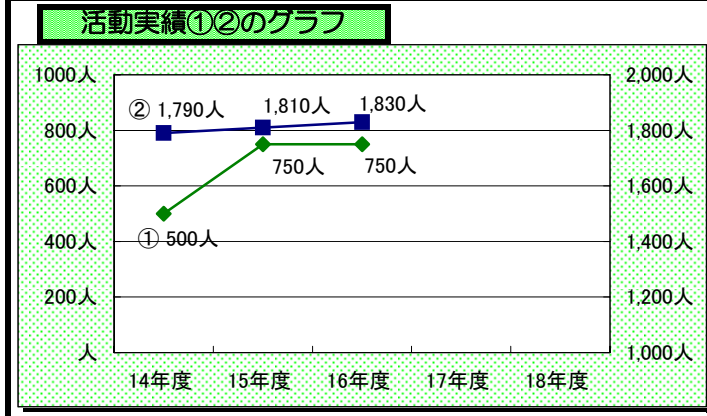
備考： 利用対象者は、熟年者の内、引きこもりがちな虚弱な人で、要介護状態に陥るリスクを抱えた人。

活動状況	<b>活動指標</b>	活動指標名	活動指標の説明
	①	熟年ふれあいセンター利用定員	1クラス・25人×クラス数×週5日
	②	要介護状態に陥るリスクを抱えた熟年者の想定人数	区人口×高齢化率×ハイリスク対象率（2%）

活動実績		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
	①	500人	750人	750人	人	人
	②	1,790人	1,810人	1,830人	人	人

成果指標	<b>成果・目標指標</b>	成果・目標指標名	成果・目標指標の説明
	③	熟年ふれあいセンター利用者数	月平均利用実人数
	④	利用率	利用者数÷利用対象想定人数

成果実績・目標		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度目標	目標値設定の説明
	③	491人	646人	660人	人	人	1,000人	要介護状態に陥るリスクを抱えた熟年者が、十分にサービスが受けられる目標数値
	④	27.4%	35.7%	36.1%	0.0%	0.0%	50.0%	



# 事業名 熟年ふれあいセンター事業

実施の根拠となる法令等

江戸川区立熟年ふれあいセンター条例

## 民間委託やボランティアなどとの協働の状況

なし  あり

委託等の内容（業務運営委託、清掃・警備委託）

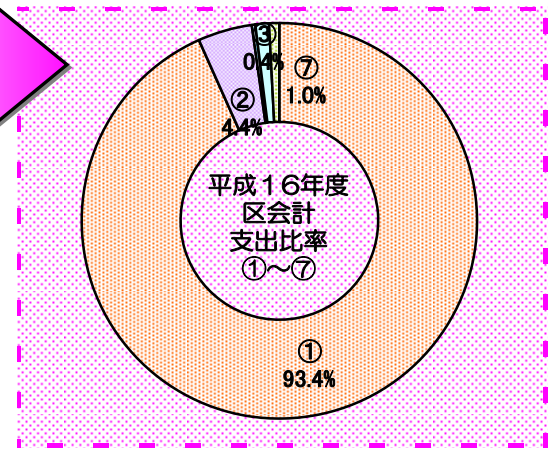
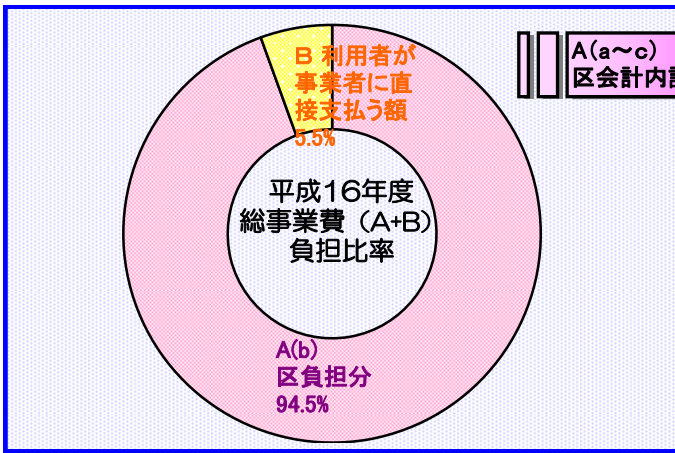
## 対象事業に関連する他の事業

	事業名	事業概要
①	地域ミニデイサービス	現在17の地区会館等で実施。延べ参加者184名、毎月1回開催。
②		
③		

## その他背景・他の自治体の状況等

- 介護保険制度の導入に伴い、要介護認定非該当者を対象として創設した事業
- 現在、瑞江、清新、小岩の3箇所のふれあいセンターを設置
- 運営は社会福祉法人（11法人）及びNPO法人（3法人）に業務委託

16年度総事業費（A+B） 182,938千円



## A 区の会計内訳 (a～c)

172,727千円

A(a) 国都支出金（歳入）	0千円	
A(b) 区負担分	172,727千円	15年度までは国都支出金 3/4
A(c) 受益者負担（歳入）	0千円	

## 支出内訳 (①～⑦)

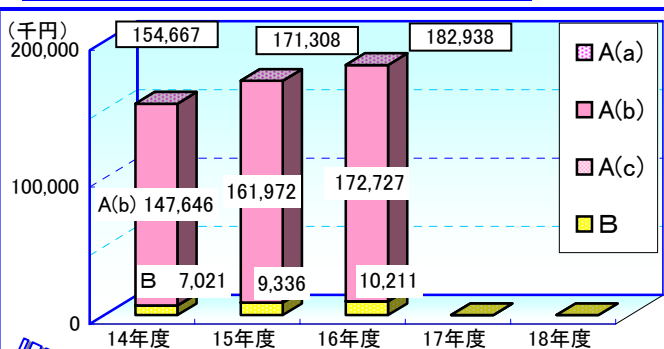
① 業務委託経費	161,275千円	送迎・食事サービスを含む 生きがい事業の委託経費
② 清掃委託経費	7,524千円	施設の清掃委託経費
③ 警備委託経費	630千円	施設の機械警備委託経費
④ 光熱水費等	1,654千円	光熱水費、消耗品費、修繕 料等
⑤		
⑥		
⑦ 人件費	1,644千円	

## B 利用者が事業者等へ直接支払う額

10,211千円

昼食代（400円）+材料  
代実費

## 総事業費の経年変化（14年度～）



ア 常勤職員	0.2人
イ 非常勤職員	
ウ 臨時職員	

16年度の  
利用者一人あたりの経費 **277,179円/年**  
利用者一人あたりの公費負担 **261,708円/年**

## 経費の説明

熟年者が要介護状態に陥らず、自立した生活が営めるよう支援する目的から、経費以上の効果が期待できます。

公費bと利用者支払い額は  
約19:1です

※18年度以降は、地域支援事業の位置づけにより区負担分の割合が大きく変わります。併せて利用者負担も見直します。

# 平成17年度 江戸川区「行政評価」内部評価シート

<b>整理番号</b>	18	<b>事業名</b>	熟年ふれあいセンター事業
-------------	----	------------	--------------

<b>所属名</b>	福祉部福祉推進課生活支援係
------------	---------------

## 所 管 課 長 評 価

そう思う ←→ そう思わない

評価項目	評点	5	4	3	2	1	備 考
<b>【必要性・代替性】</b>							
1	区が実施すべき事業である。	○					
2	目的を達成するために他の手段がある。				○		
<b>【実績】</b>							
3	目的を果たすために有効な事業である。	○					
4	事業の成果を上げている。	○					
<b>【公平性】</b>							
5	対象者や実施回数、助成額等は適切である。					○	対象者増への対応をすべき
6	受益者負担を検討する必要がある。	○					
<b>【協働の可能性】</b> ※既に実施している場合は、拡大・維持・縮小の可能性として評価							
7	ボランティアやNPOの活用が可能である。	○					
8	民間委託の可能性はある。	○					法人への委託を行っている
<b>【効率性】</b>							
9	工夫や改善が必要である。	○					介護予防メニューを取り入れたい
10	経費を削減できる可能性がある。	○					

## 所 管 部 長 の 意 見

介護予防の上で効果的な事業であり、積極的に推進すべきである。  
事業の運営にあたっては、一層の効率化に努める必要がある。

# 平成17年度 江戸川区「行政評価」外部評価シート

<b>整理番号</b>	18	<b>事業名</b>	熟年ふれあいセンター事業
			<b>所属名</b> 福祉部福祉推進課生活支援係

## 外部評価委員会評価

そう思う ← ⇔ → そう思わない

評価項目	評点	5	4	3	2	1	備考
<b>【必要性・代替性】</b>							
1	区が実施すべき事業である。		○				
2	目的を達成するために他の手段がある。				○		
<b>【実績】</b>							
3	目的を果たすために有効な事業である。		○				
4	事業の成果を上げている。		○				
<b>【公平性】</b>							
5	対象者や実施回数、助成額等は適切である。			○			一人あたりの年経費はかなりかかっているが、介護保険の認定になった場合と比較すると難しいところである。
6	受益者負担を検討する必要がある。		○				
<b>【協働の可能性】 ※既の実施している場合は、拡大・維持・縮小の可能性として評価</b>							
7	ボランティアやNPOの活用が可能である。		○				
8	民間委託の可能性はある。		○				
<b>【効率性】</b>							
9	工夫や改善が必要である。		○				
10	経費を削減できる可能性がある。		○				

## 外部評価委員会の意見

- ・この事業では、利用者一人あたり月額2万3千円の経費がかかっているが、介護保険の要支援の状態になれば、月平均6万円の経費がかかる。ふれあいセンター事業によって元気な状態を維持できれば、経費面でも効果があり、必要な事業であるといえる。
- ・社会福祉法人や、NPO法人へ委託することで効率的に運営されているようである。また、そこへ多くのボランティアが関わっていることは、たいへんよいことだと思う。
- ・高齢化に伴い今後ますます重要な事業になってくると思われる。積極的な事業運営を期待する。
- ・類似の事業に地域ミニデイサービスがあるが、利用者の重複等、考え方の整理が必要ではないか。